

海外安全対策情報平成26年度第2四半期（7～9月）

1. 社会・治安情勢

（1）7月3日、11日に相次いで銃撃や手榴弾攻撃による当国企業に対する襲撃事件が発生した。（概要は2.（4）に記載。）

（2）7月7日、メキシコとの国境付近において地震が発生した。死傷者、家屋等の倒壊を伴ったが、混乱に乗じた略奪等は確認されていない。

（3）治安の悪さが大きな社会問題となる中、現政権は軍と警察の連携を強化し、治安が改善しないグアテマラ県を中心に治安回復作戦を継続しており、統計上、犯罪件数は僅かずつ減少しているもの治安回復上の決定的な打開策とはなり得ていない。

（6）国家文民警察のデーターによると、2014年（1月～9月）の犯罪被害による死亡者数は3,721人（前年は4,052人、前年比8.2%減）と統計上では減少傾向にあるが、決定的な治安改善には至っていない。

（7）対日感情については良好である。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）国家文民警察の発表によると、第2四半期の当国における総犯罪発生件数は8,271件と前年第2四半期の9,415件と比較して12.2%の減少となったが、殺人件数は1,352件で、前年度第2四半期の1,316件から2.7%の増加を記録する等、全般としては、依然として治安回復の兆しは見られない。なお、第2四半期における犯罪種別の内訳は以下のとおり。

殺人	1,352件（前年比	2.7%増）
傷害	1,599件（	6.5%増）
強盗・窃盗	3,650件（	21.8%減）
強姦	146件（	23.6%減）
誘拐	15件（	25.0%増）
行方不明	996件（	15.9%減）
家庭内暴力	513件（	5.2%減）

（2）銃器の蔓延

当国では、銃器が容易に入手できるため、発砲事件も頻繁に発生しており、殺人、強盗、短時間誘拐の殆どに銃器が使用されている。国家文民警察の報告によると、第2四半期で治安当局が取り扱った殺人事件1,352件のうち、銃器を使用した事件は1,120件（全体の82.8%）、同じく傷害事件1,599件のうち銃器を使用した事件は1,131件（70.7%）に達しており、依然として邦人がこれら銃器を使用した犯罪に遭遇（巻き込まれる）する危険性は極めて高い。

(3) 邦人の被害事案

関連情報なし。

(4) 邦人以外の被害事案（代表的事例のみ）

ア 7月3日、グアテマラ市第18区において、青少年犯罪組織マラスが飲料水配達のため学校前に停車されたトラックに手榴弾を投擲し、爆発により女性1名（60歳）が死亡、付近にいた13名が負傷した。監視カメラの映像から事件から短時間で犯人は逮捕され、犯行の動機は恐喝であることが判明した。

イ 7月11日05：10頃、グアテマラ市第17区、アトランティック街道9km地点において、当国最大手ビール製造会社から出てきたビール輸送トラックが何者かに襲撃された。襲撃に使用された手榴弾の爆発により、警備員6名、トラックに乗車中の2名が負傷した。現在治安当局が監視カメラの映像から犯人を捜査中であるが、現在のところ犯人の特定に至っていない。また同社の飲料運搬トラックは同日04：50頃にもグアテマラ県ミスコ市で銃撃されているが、負傷者は出なかった。

ウ 7月11日09：00頃第7区で飲料運搬トラックが銃撃されトラックに乗車中の1名が被弾し負傷した。現在治安当局が捜査中であるが、犯人は逮捕されていない。

エ 8月4日、グアテマラ市第9区において、バス運転手は何者かから発砲を受け負傷する事件が発生した。犯人は逃走。恐喝に応じなかったためとみられている。

オ 8月7日、グアテマラ市第9区において、女性が待ち伏せていた男に射殺されるといった事件が発生した。

カ 8月25日、グアテマラ市第14区において、手首を縛られた状態でビニール袋に詰められた女性2名の遺体が発見された。

キ 9月19日グアテマラ市第9区において、バス乗客が何者かに射殺されるという事件が発生した。

ク 9月19日、グアテマラ市第15区で銀行から出てきた男性が何者かに射殺されるといった事件が発生した。

3. 誘拐・脅迫事件

資産家に限らず、一般市民や外国人がターゲットとなり、その大半は営利誘拐である。被害を届け出ても犯人に対する処罰や被害の補償を望めないばかりか報復される恐れもあり、犯人に身代金を支払い、警察に被害届を提出しないケースが多い。また、日本人（東洋系外国人）は一般的に裕福と見られているので、ターゲットにならないよう日頃から注意する必要がある。また日系企業も脅迫を受ける可能性は十分にある。

4. 日本企業の安全に関わる諸問題

日本企業内において労働条件等を巡るストライキは発生していないが、引き続き各種社会運動の動向には注意を要する。また、インターネットの普及により急速にグローバル化が進み、ソーシャルネットワークを使用した予期せぬ示威活動が行われる可能性もあるので注意が必要である。(了)